

司式:土屋 昌子
奏楽:橋本恵美子

前奏:「おお神よ、汝まことなる神よ」(J.ブラームス)

招詞:もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。(ガラ3:28)

讚美歌:55「人となりたる神のことは」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①申命記 30:15-20

- 15 見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。
- 16 わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。
- 17 もしあなたが心変わりして聞き従わず、惑わされて他の神々にひれ伏し仕えるならば、
- 18 わたしは今日、あなたたちに宣言する。あなたたちは必ず滅びる。ヨルダン川を渡り、入って行って得る土地で、長く生きることはない。
- 19 わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、
- 20 あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えたと誓われた土地に住むことができる。

朗読聖書②マタイによる福音書 7:13-14

◆狭い門

- 13 「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。
- 14 しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

祈禱

愛と恵みに富み給う在天の主なる神さま。7月の初めの主の日の朝、私たちは御前に呼び集められ、あなたを賛美、礼拝する為に集って参りました。どうぞ、この礼拝によって、私たちが再び揺り動かされ、語られる命の御言葉によって、驚きと畏れを以て、あなたの御業を、あなたの為された業と出来事とを、再び心に刻むことができますように。

今年度、私たちは101年目の歩みを整えられ歩み出すことが赦されています。過ぐる聖日には100周年記念のホームカミングデイが行われ、多くの教会学校の関係者が共に集い、交わりを温めることができました。御言葉の糧を得て教会学校を巣立った人々の心に再び御言葉が蒔かれ、記され、あなたの元に帰り来ることができますように。

時をかけて準備し進められております100周年の記念事業、記念史、年史、写真集などの働きの上にも、あなたの御力が加えられ、完成を目指して共に励んで行くことが出来ますようにあなたの見守りを祈ります。

また今年度4月より大谷昌恵牧師お迎えし新しく歩み出すことが赦されました。過ぐる6月15日には多くの祝福を受けて就任式を終えることができましたことを心より感謝致します。大谷先生はご就任前より体調が優れず、様々な不安を抱えての歩み出しとなりましたが、ここまで努力され、お勤めを進めてくださいました。今月は休養されますが、どうかあなたが

先生の歩みを顧み、お守りください。私たちが共に支え合い、御先生を中心に教会を立てて行くことができますように。為すべき務めをそれぞれに示し導いてください。

神さま、あなたの御言葉を聴く私たちに平和について教えてください。この世の分裂・分断は人の命を軽んじ、無辜の子供たちさえ血を流している惨状です。人々を互いに遠ざけているものは何かを示してください。あなたが歩まれた道に私たちが「つき従い」、あなたの命の御言葉を携えて世に生きる者としてください。

神さま、今日備えられております主の食卓を感謝致します。共に与ることが赦されておりますことを感謝致します。

あなたは私たちが知らずに犯す罪にも目を留めておられることを私たちは知っています。忘れること早く、省みることの乏しい者を憐みをもって、励まし、慰めてください。どうか真実な心を以て罪を告白し、悔い改めることができますように、一人ひとりをご導いてください。

今日御言葉を執りついでくださる牧者を感謝致します。敬愛する御牧師の上に聖霊が豊かに注がれ、また、聞く者の耳と心が開かれますように。

今日高齢のため、病のため、夫々の事情によってこの場を覚えつつ集うことのできない肢々の上にも、あなたの豊かな祝福を祈ります。

この祈りを主イエス・キリストの聖名によってお献げ致します。アーメン。

讚美歌:408「この世のもので」

説教 「狭い門から入れ」

佃 雅之

主キリストは「狭い門から入りなさい」と、命じられています。「狭い門から入れ」、この言葉はどのような意味であるのでしょうか。キリストは『マタイによる福音書』5章の初めから、私たちがどのように生きるべきか、主に従って生きる者の姿を語り、教えてくださいました。私たちは『山上の説教』から、信仰者としての幸いとは何か、「敵を赦し、敵を愛する」こと、祈りについて、「思い悩むな、わたしを求めよ」と、多くの言葉を戴いて参りました。しかし私たちは、これらの御言葉を日々の生活の中で実践している、御言葉が私の中で実現していると言えるのでしょうか。敵を赦すことなどでできそうにない、思い悩むことをやめなさいと言われても、そんなに簡単にはできない。キリストの語られる説教をこれまで真剣に聞いてきたにもかかわらず、主の教えに従って生きることが、今もなお出来ていない、自分には無理だと決めつけてしまっている。そのような、諦めの思いが心の中にあることを主は既にご存知であります。だからこそ、キリストは私たちの心を見抜かれ「狭い門から入りなさい」と、語られているのです。

では、キリストが山上から教えてくださった「信仰の道を歩む」ために私たちはどのようにすればいいのでしょうか。今日の箇所からその問いに対する答えが始まります。「狭い門から入れ」、これが最初の答えです。

「狭い門」という言葉は、一般的にも競争社会の中で用いられ「難関を突破する」という意味でよく使われます。努力や忍耐の末に成功する、そのような価値観と重ねられます。多くの人は「狭き門から入れ」という言葉を、安易で楽な道を歩むのではなく困難な道を選びなさい、人が選ばたがらない困難な道を忍耐強く歩むことで、結果としてあなたの能力が花開くし、良いものを得られることになる。選択肢が幾つかあるなら、その中で最も厳

しい道を選ぶことが良い。あるいは、多くの人はこちらを選んでいる、でも私は多くの人が選ばない道にかけてみよう。

このようなことを「狭き門」と考える人は少なくありません。信仰者であっても険しい道をあえて通ることで、その忍耐の先にこそ神からの祝福が与えられると考える人もいるかもしれません。しかし、ここでキリストの言われている「狭い門」とは全く意味の違うものであります。キリストは「狭い門から入りなさい」と命じられた後に、こう言われました。「滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。」「そこから入るものが多い」とありますが、直訳では、「非常に多い」(πολύς) [甚だしい] という言葉が使われています。実際、様々な人たちがこの広い門を通ります。広い門を通る人には実にいろいろなタイプの人があります。私たちがまず考える「広い門を通る人」とはどのような人でしょう。お金や権力、地位に執着して、「この世での力が全てだ」と考える人、自分の欲に負け快楽に溺れても、失敗や過ちを犯しても、悪いのは自分ではなく社会のせい、親のせい、時代のせいだと言って誰かに責任を押し付ける人、他人と自分を比較してばかりで、妬んで、開き直って自分勝手に生きる人、あるいは、物事が自分の思うようにならなくて、もうどうなってもかまわないと自分の体や心を、命さえ大切にしない人だと考えることができるかもしれません。

しかし、キリストの言われる「広い門に入って行く人」とは、このような人たちのことばかりではありません。実は人間の目から見ると立派に写る人たちの中にも、広い門から入り、広い道を歩んでいる人が多くいます。例えば、他者のために自ら犠牲を引き受けるような誠実な人、多くの人に喜ばれる行いをしている、言えばクリスチャンよりもずっと優しく親切な人、高い能力を持ち自信に溢れ自分の信念に従って堂々と生きている人もいます。まさに、狭き門を突破して成功を収めたように見える人々です。

しかし、そのような人たちの中にも、実は「その生き方は広い門だ」とキリストは語っておられます。なぜ、このような、一見立派に見える人々も広い門から入っているのかといえば、その人たちの生き方は、自分の力で、自分の知恵で、自分の努力で生きて行くという道であるからです。たとえ人のために命を献げたとしても、その目的が自己満足や自己救済の手段となっているなら、それもまた滅びに至る広い門なのであります。結局は自分を中心にした道です。その道はどんなに立派に見えても、神との繋がりがなければ、やがて行き詰まり滅びへと向かってしまうとキリストは警告しておられます。そのために「狭い門から入れ」と、私たちに言われるのです。

ここで私たちは、キリストが用いられている。「門」と「道」という言葉が、いずれも主ご自身を意味する言葉であることを思い起こさなければなりません。第四福音書記者ヨハネは、ご自身が「わたしは門である(ヨハ10:9)」と語られたことを伝えています。さらに、キリストは「わたしは道であり、真理であり、命である(ヨハ14:6)」とも語られています。「狭い門」、「細い道」は主イエス・キリストご自身のことです。「主と出会い、主に全てを委ね、主の中で生きること、それが命に通じる門」なのです。

しかし、この門は広くはありません。狭い門です。狭い門から入るためには、身に着けている物、持ち物を減らさなくてはなりません。沢山荷物を持っては入ることができないからです。これまでに積み重ね、蓄え続けてきた荷物、例えば自分の誇り、能力、立場、過去の成功や失敗を手放す必要があります。古い自分を門の前に捨てなければ、キリストという

狭い門を通ることはできないのです。ある説教者は、「それは自分が削られることだ」と言いました。信仰者も同様です。多くの人は聖書を学び知識を得て十分な準備を整えてから神の前に出ようとしていますが、それだけでは救いには至りません。どれほど多くの御言葉を知っていても、主の前に跪き、「あなたに全てを委ねます」と言わなければ、門の前に立ち尽くすだけであります。キリストはこう言われました。ヨハネによる福音書5:39からです。「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしなさい。」このキリストの言葉は、熱心な信仰者に向けて語られたものです。たとえ、頭の中で聖書に書かれていることを知っていたとしても、魂の深いところでは、神がキリストによって表された神の恵みの言葉、その恵みの出来事の本当の意味を知ることができないと言うことです。たとえ聖書を熱心に研究し見出した一つひとつを喜びと感謝をもって蓄積しても、神との直接的霊的交流がなければ神の真理を知ることができません。キリストは「自分の力で何かを悟ったり、努力して成し遂げて何かを手に入れて命を得なさい」とは教えておられません。主に信頼して、自分を削ぎ落として、狭い門から入って初めて真の喜びに出会う、真の命に触れることが赦されます。キリストが命じられていることは唯一、「わたしのところに来なさい。」このことだけです。

「狭い門から入れ」という言葉は私たちに決断を迫る言葉であります。神から決断を迫られるのは私たちばかりではありません。今日、福音書と共に読まれた申命記は、『モーセの遺言』として知られています。40年に及ぶ荒野の旅の後、ヨルダン川を渡り約束の地に入って行くイスラエルの民にモーセは説教を語りました。荒野から乳と蜜の流れる豊かな土地に入っていく。時代も変わり場所も変わる。取り巻く環境も変わる。40年の間荒野の旅を導いた指導者もモーセからヨシュアへと交代します。時代の大きな変わり目にモーセは民にこう語りました。「見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いを、あなたの前に置く。(申30:19)」モーセは説教を通してイスラエルの民の前に二つの選択肢を置きます。命か死か、第三の選択肢はありません。モーセは命を選ぶことを勧めています。「あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命なる」からです。「つき従う」という言葉(אָהַבְתֶּם אֱלֹהֵיכֶם)は、「固く結びつく、くっついて離れない」という意味を持っています。「主と固く結びつく」、ここに命の道があります。

キリストという門は狭く、キリストという道は細い。その道は険しい道かもしれません。けれども、キリストは、その細い道を自分の力で歩き抜けとは言っておられません。キリストは言われました。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの轡は負いやすく、わたしの荷は軽い。(マ11:28-30)」主は私たちに、「わたしのもとに来なさい」と招いておられます。そして、「あなたが今抱えているあなたの重荷を全部下ろしなさい。」と言ってくださいます。私たちが背負っている重荷は主に委ねていいのです。主が私たちの重荷を負ってくださいます。「あなたが、わたしのところに来るなら、これからは一人で自分の人生を歩むのではなく、わたしが一緒に歩む」という約束であります。

「轡」というのは、二頭の牛を繋いで一緒に歩かせ働かせるための道具です。二頭の牛がバラバラに動こうとすると互いの身体が傷つき痛みますから、足並みを揃えることが大切なのです。「キリストの轡を負う」ということ

は“キリストと足並みを揃えて歩む”ということです。申命記にも記されてあった通り、主に「つき従う」こと、“主にくっついて離れない”ことが私たちには赦されているのです。

神無しの人生、滅びに向かう失われた生活か、神と共に生きる、命に至る生活か、どちらかを選ばなければなりません。私たちは決断を迫られています。

この礼拝に集められた方の多くは既に信仰を告白されていますから、“私は既に狭い門を通った”と思っておられるかもしれません。しかしキリストは、“命に通じる門は狭い”と言われた後、「その道も細いことか。それを見出す者は少ない。」と言われています。実に、私たちの日々の暮らしは、大小様々な決断の連続です。信仰が与えられていても私たちの毎日の暮らしは心が痛むこと、呻くようなこと、危ういこと、あるいは様々な誘惑に溢れています。滅びに至る広い門が常に開いている、滅びに至る広々とした道が目の前に広がっているような毎日です。いつも、何事も、“狭い門から入れ”との、キリストの言葉を思い起こすことができなければ、その道は、真に細いために、常に道の両側に転落してしまう危険があるのです。信仰生活とは日々の生活の中でキリストが山上から語られた教えを絶えず思い返す、実践することが求められています。今日キリストが、“あなたはもう自分で頑張らなくていい。わたしのところに来なさい。わたしが新しい命を与える”と語りかけてくださっています。

神は、イエスという門を通る者に命と祝福を豊かに与えてくださいます。“狭い門から入れ。わたしのところに来なさい。ここにわたしがいる”と主が私たちを招いてくださっています。お祈りを致します。

聖なる神、この朝、恵の御言葉を与えてくださり、心から感謝致します。主よ、私たちが常に狭い門を見出し選び取ることができますように、キリストの弟子として相応しく生きることができますように、聖霊が導いてください。この礼拝に集った全ての者に、あなたの命と豊かな祝福をお与えください。この教会から、あなたの福音が大きなものとなりますように。私たちが頂いた恵みの御言葉が、この信濃町の地から、私たちひとり一人から、溢れ流れるようにしてください。全てをあなたに委ねます。御心のままに私たちを用いてください。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:463「わが行くみち」

聖晚餐 ニカイア・コンスタンティノポリス信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:79「みまえにわれらつどい」

献金・感謝(西窪幸子)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

天にいらっしゃいます主イエス・キリストの父なる神さま。今日も赦されて愛する兄弟姉妹と共に、ここで、またオンライン配信を通して礼拝を献げることができましたことを心から感謝致します。

主よ、あなたはいつも私たちに十分な物を与えてくださっています。私たちの教会は今、101年目の歩みを進めています。私たちの先達は常に狭い門を通り、細い道を進んで、私たちに信仰を継承してくださいました。そして、そこにはいつもあなたの確かな御手がありました。どうか、私たちも、あなたに信頼してこの道を進んでいけるようにしてください。あなたは、また、“重荷を負っている者、疲れている者はわたしのところに来なさい。休ませてあげよう。”と言ってくださいました。どうか今、教会の中に重荷を負い、疲れている者がおりましたら、本当にあなたに信頼して、あなたの元で休

むことができるようにしてください。

あなたから与えられました豊かな恵みの中から、今、私たちの献身と感謝の徴としてお献げ致しました。それを御用のためにお使いください。

今日、特に、あなたが私たちに聖餐を与えてくださいましたことを心から感謝し、罪赦された者として、この教会で歩みを進めていくことができるように、一人ひとりを支えてください。新しい一週間を始めるにあたり、「主の祈り」を共に祈って、私たちの毎日を支えてください。

主イエス・キリストが教えてくださいました「主の祈り」を共に祈りまして、この1週間の歩みを始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌91「神の恵みゆたかに受け」

派遣と祝福 <司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。会衆:私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。アーメン。

報告:週報記載以外特別な報告無し

後奏:「おお神よ、汝まことなる神よ」(J.S.バッハ)